

稲毛から検見川へ
千葉街道(房総往還)を歩く旅

3月に入ったばかりの頃だったか、京成稲毛駅に降り立ったのは午後三時半を過ぎていたかもしれない。駅舎と言うほどでもない小さな駅を出ると視界に入ってくるのが、立派な佇まいのお茶屋「稲毛園」。(右写真)



立派な瓦屋根が気になったが、意外なことに創業は1935年とのこと。西南西に走る浅間神社に向かう「せんげん通り」の両側には商店街が並ぶが、少しずつシャッターが下りた街に向かっているような感じがする。今日がお休みなのか、もう営業していないのか、店の前に車を停めて間口をふさいでいる店があった。

店の名前は「成功舎」、横に立っていた幟に「時計電池交換」と書いてあったので時計屋のようだった。(下写真)

時計屋の先にある「天鷹」の立派な樽を掲げた「酒長 並木酒店」が気になった。近代的な建物ではあるが、その佇まいがどこか歴史を感じさせる。栃木県大田原市の「天鷹」は、私が時々飲んでいる酒なので親しみを感じた。この酒屋は何故大田原の酒を扱っているのだろうか。店主が「天鷹」の系統の人なのか、それとも大田原の出身だからか、などなど想像が頭を巡る。



前方に浅間神社の緑の塊と鳥居が見え隠れする頃、左手にはソープランドの看板、右手には不思議な飲み屋が。

同じ建物の左手が赤い屋根の「居酒屋くみちゃん」、右手が「居酒屋玉ちゃん」。シャッターが下りているが、開ければ二店はつながっているような感じがする。

やがて稲毛浅間神社の大きな鳥居が現われ、すーっと吸い込まれるように境内に入った。海沿いに走る房総往還から参道に入るこの神社、稲毛駅から入るこの道は裏参道なのだろうか。盛り上がる小山の頂にある本殿は、現在の地形図で見ると海拔12.5m、海を見下ろす素晴らしい景観の神社だったに違いない。大同三年(808年)に富士浅間神社を勧請したのが始まりで、主祭神は木花咲耶姫。(右上写真:浅間神社二の鳥居)



源頼朝が武運長久を祈願したとの言い伝えが残っており、その後千葉常胤をはじめとした千葉氏の厚い加護を受けた。

文治三年の社殿再建の折、盛り土を行って富士山を模した小山を作り、富士山のように参道も三本配したと記録があるので、前記の海拔12.5mの小山は人工的なものらしい。第一の鳥居は当初は海の中にあったが、ニュータウン造成のための埋立の犠牲になり、今では広い国道14号線の反対側に遺跡として残されている。(右下写真:一の鳥居)



境内末社として、八坂神社、大宮神社、稲荷神社、巖島神社などがあり、何処の大きな神社も同じであろうが、他の末社のような存在を合わせると、神社のスーパーマーケットのようになっている。

二の鳥居の前に立ち、目の前に海が広がり、その先に波を浴びて一の鳥居があることを思い浮かべつつ千葉街道を検見川に向かって歩き始めた。

右手に入る路地が何本かあったが、どの道もみな緩やかに上っていて、路地の途中に瓦屋根のきれいな歴史を刻んでいそうな造りの家が何軒かうかがえる。そして草野水路に架かる花園橋を渡ると、路地奥に段差がうかがえるようになり海岸段丘地形の始まりが分かる。額田研究所入口辺りまで来ると、右手は崖の様相を呈してきた。千葉西警察署前の信号を渡るともう右手は見上げても見えない高さの崖になってきた。路傍に手作りの祠が建っているの、立ち止まり中をのぞいてみた。石仏が一体あるが文字の刻みや表示の看板はなく、何者なのかは

わからなかったが、日々手が入っていることをうかがわせるような一対の花が人の気配を漂わせていた。(左写真) 小さな祠の脇に、崖を斜めに上っていくジグザグの階段があるので上がって見た。途中に「急傾斜地崩壊危険区域」の看板が建っていて、グイグイ上がっていくと、検見川五丁目の住宅地のはずれに飛び出した。国土地理院の地形図を見ると、千葉街道は海拔 3.6mで崖の上の住宅地は海拔 17mとなっていた。(右写真:崖を登る階段) 再び千葉街道に戻って北西に向かって進む。今では海辺まで何キロも歩かなければならないのだが、街道沿いに建つアパートの名前が「うたせ」「さざなみ」など海辺を感じさせるもので面白い。



豆腐屋があり、漁師の家を思わせるような家があり、厭きることはない。

途中から街道の一本海側にある、街道と並行して走る路地に入ってみた。20 年ほど前に来た時には、海辺に建つ家の名残で、船から上がる板敷きのある家が何軒もあったが、もう一軒もなく、新建材の新しい家ばかりが並んでいた。

海がなくなり街道だけが残った漁村の集落は、「そこに海があった」ということなど忘れてしまったかのように時代の流れに合わせて姿を変え、歴史年表の中に埋没しようとしているようだった。

曇天の夕暮は寒くなるのが早い。冷たい空気が支配し始めた検見川陸橋の上にあがり、検見川五丁目からバスに乗ったら、間もなく17時になるところだった。

以上

